



るらてる



2016年
10月
No.826

■発行所■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト■ <http://www.jelc.or.jp>
■E-mail■ jelc@jelc.or.jp

■発行人■ 安井宣生 koho006@jelc.or.jp
■印刷人■ 精文堂印刷株式会社
■定価■ 1部 40円 (郵税を含む)
■振替口座■ 00190-7-1734



説教 「それでも赦しを語る」

日本福音ルーテルみのり教会 牧師 三浦知夫

ぶどう園の主人は言った。「どうしようか。わたしの愛する息子を
送ってみよう。この子ならたぶん敬べてくれるだろう。」

(ルカによる福音書20章13節)



ある人がぶどう園を作り、これを農夫たちに貸して旅に出ました。収穫の時期になり、主人は収穫を受け取るために僕を送りま

すが、僕は袋だたきにされ、追い返されてしまいます。二人目の僕も、三人目の僕も同じでした。それで主人は愛する息子を送るのですが、農夫たちはぶどう園を自分たちのものにしよ

うと考え、跡取りである主人の息子を殺してしまつたというのです。

最初の僕が袋だたきにされた時点で主人は、農夫たちが信用できる相手ではないと分かつたはずで

す。それなのになぜ主人は農夫たちにぶどう園を預けたままにし、彼らを信じて僕を送り続けたのでしょ

うか。私たちは、信用できない人、それ

も既に裏切られたというよう

な人に再び何かを頼もうとはしないでしょう。

主人に人を見る目がなかったという

ことではあり

ません。この主人は、信用できない者であつても信じ

続ける、裏切られても相手を信じて待ち

続ける人だつたのです。

ぶどう園は

神様と神の民の関係を表して

います。ぶどう園の主人は神様、農夫たちは民の指導者たちであり、また神の民のことです。人々は神様から任されたこの世界で自分勝手に罪を犯して暮らしていたので、神様は人々が悔い改めるように何人もの預言者を遣わしたので、人々は預言者を退け続けたのです。

それで神様は「わたしの愛する息子を送ってみよう。この子ならたぶん敬べてくれるだろう」と独り子であるイエスをこの世界に送られたのです。人々が信用に足る者たちではないとよく分かつていても、それでも神様は人々を信じ続けてくださったということ

です。たとえでは、主人が「戻つて来て、この農夫たちを殺し、ぶどう園をほかの人たちに与えるにちがいない」となつていきます。それでは実際のその続きはどうだつたのでしょうか。聖書は、イエスを殺してしまつた者たちも、すべての罪に生き返る者が、神様の許に立ち返

り、罪の赦しを受け取るように招かれていると私たちに告げています。そして、私たちは神様の前に繰り返し罪を犯し、神様を裏切り続けている人々の中に自分自身の姿を見いださなければなりません。信用できない者たちを信じ続け、徹底して赦しを与え続けようとして、神の愛にまわされたいと思つてい

ます。宗教改革から500年を迎えようとしています。私たちの在り方をもう一度見直し、恵みを確かめる時です。私たちルーテル教会がこれまでこだわって続けてきたこと、これからもこだわり続けていかなければならぬこと、これからは、赦しを語り続けることだと、私は思っています。

自分の罪に気づき、十字架の赦しを受け取った者であつても再び罪を犯します。その度に私たちは何度でも赦しの言葉を聞くのです。十字架の赦しを伝える務めは、牧師だけにではなく、教会に連なるすべての信徒にも与えられていま

す。赦しの言葉を語り続けるところに留まるのではなく、赦された者が成長するための言葉に、語る言葉の重心を移していくべきだという考えもあるでしょう。赦された者として成長していくことは、もちろん大切なことです。しかし、信仰者としての成長の妨げになるから赦しを語ることはもう卒業しようとは考へないのがルーテル教会だと思つたのです。

赦しを語り続けることによつて、私たちの中に甘えが生じてしまつて危険があることも事実です。そのことは素直に認め、そうならないように気をつけていかなければなりません。けれども、だから赦しを語ることは少し控しようとはならないのです。それでも「あなたに赦される」と繰り返して語り続けるのがルーテル教会です。十字架の赦しを語り続けることが何よりも大切だからです。ただ神様の恵みにより、十字架をとおして私たちの罪は赦されるのです。私たちは赦しの言葉に「はい」という

「東京2020大会協賛くじ」なるものが発売されていたのですが、そのキヤッチコピーをご存じでしょうか。それは、「私たちも、ニッポンのお役に立ちたい。」というものです。この宝くじは、2020年に東京で開催する五輪を応援する目的で販売されたものです。ですので、「東京オリンピックを応援しよう」といったものではなく、「トホホ」と笑つて販売の前の通り過ぎることができたでしょう。

けれども、「私たちがニッポンのお役に立ちたい」というキヤッチコピーを前にして、なんともいえない嫌な気持ちになりました。それは、このキヤッチコピーが、東京五輪を応援することと日本という社会の役に立つことを

同義に考えているからです。そしてここには、ニッポンの五輪を応援しない者という排除の考えが含まれています。たぶん企画者はそこまで考えてはいないのだと思いますが…。

しかし、昨今の社会には、人間の価値を、「社会(ニッポン)のために役立つかどうか」で評価するという空気が充満してきているのではないのでしょうか。

主イエスは、安息日に麦の穂を摘む弟子たちが批判されたとき、食べ物がなく空腹のダビデと共の者たちが、祭司のほかは誰も食べてはならない供えのパンを食べたことを話した後に言われました。「安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない」(マルコ2:27)と。

私たちは、ここに住む一人ひとりが、生きていくために「結びつき」「分かち合う」ために社会ができたことを、肝に銘じたいのです。

岩切雄太
(門司教会 八幡教会 佐賀教会 牧師)

宗教改革500年記念
教会手帳 2017

発売中

定価 1,100円

お求めは
北海道キリスト教会 (TEL:011-737-1721/FAX:011-747-5979)
キリスト教会/ハンナ (TEL:03-3269-4490/FAX:03-3269-4491)
静岡聖文会 (TEL:054-260-6644 FAX:054-260-5612)
名古屋聖文会 (TEL:052-741-2416/FAX:052-733-2648)
広島聖文会 (TEL:082-208-0022 FAX:082-208-0177)
キリスト教会/レレルヤ (TEL:096-372-3503/FAX 共用)
日本福音ルーテル教会事務局 (TEL: 03-3260-8631/FAX:03-3260-8641)

連載コラム
enchu

⑦【Society】



議長室から
宗教改革500年まであと1年となりました。これからは、全国総会や常議員会を経て決めた記念事業を実行するのみです。各目がそれぞれのやり方で、500年に一度の記念事業に積極的に参加いただければ幸いです。

この問いを耳にしてすぐに思い起こしたのが、ある日本の社会学者のこの社会現象の分析でした。それは、ルター自身が貧者の救済に尽力したこともさることながら、誰もが貧者になり得るし、失業する可能性があることをルター派は肯定する性格がある、これが主因だと言っています。だから、誰にも一様に適応できるような社会制度、つまり福祉社会へとつな

「ルターの正と負の遺産」

総会議長 立山忠浩

体研修会にて其講演をしてくださった阿部志郎先生(神奈川県立原健福祉大学名誉学長)は、北欧を中心に社会福祉政策が充実している国々はいずれもルター教会を基盤としているのだが、何か関連があるのだろうかと思われる。救済に尽力したこともさることながら、誰もが貧者になり得るし、失業する可能性があることをルター派は肯定する性格がある、これが主因だと言っています。だから、誰にも一様に適応できるような社会制度、つまり福祉社会へとつな

なかつたという解釈です。さらに重要なことは、このルター派的な性格がキリスト教の本来の条件だと述べていることでした。キリスト者ではない社会学者がルター派の性格を評価するのです。ならば、ルター派の教会こそが

農民戦争の際のルターの影響が、多くの農民を殺戮することにつながったことを指摘し、驚くべきことに、日本のあるカルト集団の指導者と似ているとさえ書いているのです。さすがにそれは言い過ぎとしても、ルターのユダヤ人への言動など、その時代の状況を差し引いたとしても好ましくない負の遺産があることも事実です。



⑥ レイトウルギア (礼拝する民) その2

宮本 新

(田園調布教会会牧師、日本ルーテル神学校講師)

で営まれているのは public worship (公の礼拝)だからです。その公(public)は「官」や「お上」ではなく、ここでは人々と「共(common)」を標榜するといふユニークな公私の組み合わせが見られます。ルターは宗教改革もこのパブリックとしての公共論に「一役買って」います。ルターのドイツ語訳聖書は「民衆訳聖書」と言われ、讚美歌(コラール)や小教理問答には人びとの日常生活で経験的に習得されていく「礼に宿る超越性」が秘められています。ルーテル教会が街角にあるのも偶然ではないでしょう。

も、むしろ馬小屋に生まれ、市井の人々と共に歩んだイエスを黙想する機会が多くなることでしょう。私たちは天の高みに昇るのではなく、地の低みに降りてこられる神の愛と憐れみに触れて讚美の声を挙げます。人々の暮らしの中に「教会」は信じる群れとなつて「生まれる」。あのパンと葡萄酒にキリストが現臨されるのを信じて集うように、「今、ここで」み言葉を求めます。礼拝では日常の言葉で神のことが語られ、讚美し、生かしかされるリズムを整えます。プロテスタントは巡礼の神学を持たないのではなく、より深く「俗」なる世界を巡礼的に生きる舞台を見つめます。俗のただ中に「聖なるお方」が共におられることを信じるからです。「ここは神の世界」と「俗」のまっただなかにおいて聖を祝い、この世の国のまっただなかで「神の国の宣教」に身を投じているのが町の教会の姿のようにも見えます。祝福をもって「派遣」で結ばれる礼拝はそれを物語っています。

ルーテルこども キャンプ報告

キャンプ長 甲斐友朗

8月8日〜10日、第18回ルーテルこどもキャンプが広島教会を会場に行われました。今年は、小学5、6年生のキャンパー32名、スタッフ28名、総勢60名がキャンプに参加し、恵み深い3日間となりました。

今年、広島では大きな出来事がありました。オバマ大統領の来訪です。そのため、原爆資料館や平和公園内には大勢の海

外の方の姿が見受けられました。子どもたちも、原爆資料館や原爆の子の像、原爆ドームなどをめぐりながら、原爆の被害や平和について思いをめぐらせました。そして、教会に帰ってからは、「平和なこと」と「平和でないこと」を、それぞれ紙に書いて模造紙に張る作業をしました。予想以上に様々な意見が出て、子どもたちの考えの深さに驚かされました。

子どもたちにとって「広島のこと」と「聖書のこと」、2本立てで平和について考えることになり、大変だったことでしょう。でも、子どもたちは最後まで、自分の



頭で考え、自分の言葉で意見を言おうとしていました。きつと、この3日間の経験は、子どもたちにとってかけがえのない財産になったことでしょう。最後に、子どもたちを送り出してくださいました各教会、教区の皆様、場所を提供し、献身的にご奉仕してくださいました広島教会の皆様、やる気と賜物に満ちたスタッフの皆様、このキャンプを覚えてお祈りくださいました全国の皆様に心より感謝申し上げます。

「人をお招き」と考えられがちですが、もう一面に「人が遣わされる」が組み合わされた宣教論が求められています。一般的にプロテスタントでは「巡礼」旅行はして、それを宗教行為として行わないし、礼拝に行くといつて山の頂きや深い森の中に行きません。世俗(地域・日常)の真っただなかにある町の教会に集います。人々の日常生活に宿る「聖」、つまり「俗」における「聖」へと心眼を開いて、み言葉に耳を傾けます。そこでは昇天と再臨のキリストより





宗教改革500年に向けて ルターの意義を改めて考える (53)

ルター研究所長 鈴木 浩

どこの大学でも、すべの授業がラテン語で行われていた。だから、外国で学ぶことも特別なことではなかった。例えば、ヴィッテンベルク大学の学長になるシヨイルは、法学研究が進んでいたイタリアのボローニヤ大学で学び、そこで法学博士の学位を得ていた。大学生は誰でも、ラテン語で話し、読み、書いた。ルターもそうであった。中国文化圏のもとにあったどの国でも、かつては、知識人は漢文を読み、書くことができたのと同じである。ただ、漢文では話すことができなかったのとは違って、ラテン語では会話も可能だった。

ラテン語はときどき奇妙な表現をする。例えば、大学を首席で卒業すると「ソムマ・クム・ラウデ」(最大の称賛をもって)と呼ばれた(アメリカでは今でもそうである)。しかし、語順を単純に英語に置き換える「the highest with

praise」となる。同様に「この箇所では「ホック・イン・ロ」(this in place)となる。前置詞がどういつわけか「前に置かれず、「中に置かれるのだ。ルターには、数は多くないが、同じ本文をラテン語でもドイツ語でも書いたものがある(例えば「キリスト者の自由」)。比べて読むと、ラテン語本文は

かにもラテン語風の響きがあり、ドイツ語本文はいかにドイツ語の特徴が出ている。メランヒトンが書いた『アウグスブルク信仰告白』もその点では同じだ。ルターもメランヒトンも完璧にラテン語をものにしていて証拠である。当時の大学生は、みんなそうであった。だから、ルターのおかげでヴィッテンベルク大学が「一躍「有名校」になると、外国からも大勢の入学者が出て来るようになった。そのせいでどうするか、ルターの給料は突出していたようである。それでも生活は大変であった。



⑫ 慰めと励ましの歌

力なる神は
わが強きやぐら
(教団讃美歌450番)

どの教会でも宗教改革主日や記念日の礼拝では必ずこの讃美歌を、それも力強く歌うだろう。ほとんどの人がこの讃美歌はルターによるものだと知っているだろうが、その背景や歴史を考えてみたことはあまりあるまい。これは元々このような勇ましい歌ではなかった。反対者に囲まれ、改革は停滞し、いわば四面楚歌の中で自らはうつ傾向に

陥っていたルターが自らを慰め、励ますために詩編46編の始めを歌詞とし、さらに敵に囲まれなす術がなくとも、自分に代わってキリストが戦ってくたさるから、最後の勝利は神のみ手にあると歌ったものだった。従って原曲はテナーのソロ曲、もつとゆつくり慰めと励ましを入れて歌うものだった。似てはいるが元気のよい、宗教改革行進曲のような現在のメロディーになったのはルターから100年か150年経つてのことだったろう。ドイツ北部から北歐にかけてルーテル教会が揺るぐことのない位置を占めるように

なった頃である。バッハもその勇ましいメロディーを使って、カントータ80番を作曲した。死後その息子の一人が演奏したときにはさらにトランペットまで加えて勝利の歌の響きを強めたという。原詩をできれば直訳でもよいから静かに読んでみると、作詞当時のルターの姿をいささかなりと心に浮かべることができらうか。これを原曲で静かに歌って信仰の励ましとするとということもまた、ルターに即して意味深いことだろう。教会讃美歌改訂版にはこの原曲をぜひ並べて載せて

Der 107. Psalm / Deus noster refugium et virtus / etc. Martinus Luther.

30. 49.

Ich feind / mit crust ers ist mein / gros (macht vnd viel list / sein grausam rüftung ist / auff erd ist nicht sein gleichem. / Zie wjer macht ist nicht gethan / wir sind gar bald verloren / Es streit te man / den Gott hat selbst.

の箇所で「われと共に」と歌うのは誤訳も誤訳神学的にも誤りである。心してルターのこの信仰歌を心に刻みつつ歌いたい。

敬愛する兄弟姉妹へ、 退任にあたり

ポーマン・ナタン



私の日本との関わりは

その誕生以前からものでした。父ジョン・ポーマン牧師は、当初は進駐軍として終戦直後に日本に着任し、軍警察として日本人を米兵から守る役割

に就きました。また母の弟はその前に沖縄戦で戦死しています。仙台のある教会の教会学校の子ども達が父に、「日本に戻って、子ども達にイエス様のお話をしてください」と呼びかけたことが、その後の父の人生を大きく変えることになりました。そしてそれはまだ生まれていなかった私の人生を方向づけることになりました。

東京で生まれ、湯河原大垣、東京で過ごし、その後29年にわたり神水教会、松橋教会、熊本教会の国際礼拝、慈愛園など様々な宣教の場に関わる

恵みが与えられました。熊本地震により、宣教師館が耐震性に乏しく、安心して生活が続けることができないことが分かりました。最初は野宿し、雨が降り出すと車に、暑くなると別棟の倉庫に宿りました。こんな時には宣教地を離れるものではないと確信しました。関わりのある3つの教会はひどい被害を受けており、施設も学校も同様でした。地震の度にグラウンドに集まり、一緒に避難する生活が続きました。

同時に教会や施設を通して、周りの方々を守る大切な絆作りの時ともなりました。コミュニティは被災の副作用である「人震災害」を止める大事な予防線です。コミュニティを失えば、希望も残らず、人としての基盤が揺れることを「人震災害」と名付けました。災害時に人々の心が繋がらなければ、人はその災害に負ける。このことは阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地方大震災などから学びました。被災者に対するゴールデンルールは、被災者の選択権を先ず認め、応援することです。そのような中、私は重

大な決断をしなければならなくなりました。派遣元のアメリカの教会より辞任を命じられたのです。結果、8月1日付で辞し、渡米しました。皆様の愛と励ましを受け、深く感謝しています。教会と慈愛園と近所のコミュニティを通して子どもが3人与えられ、合わせて5人の子ども達とその家族も日本の影響を受け育つことができました。新しい出発をします。皆様に聖霊が豊かに注がれますように。愛する日本の国が癒され、神の愛に導かれますように祈っています。

